

プログラム及び抄録

第一部

1. 調査発表

“URMによる歯周治療の効果”

— 第一報 導入直後の治療効果について —

○三島 賢郎 小玉 明民 熨斗 美奈子 (天王寺診療所)

URM=Ultrasonic Rootplaning Method は、微振動の超音波発生装置と、特殊なチップを使った新しい歯周病へのアプローチです。無麻酔で深いポケットへのアプローチが可能で、その効果として、炎症の抑制、新しい付着の獲得による pocket depth の減少、バイオフィルムの破壊による抗生剤の効果の向上などのメリットが報告されています。今回我々は、このシステムを用いて、導入直後1ヶ月間の使用でどれだけの効果が上がるかを、BOPが消失した部位の割合、pocket depthが減少した部位の割合、pocket depthの減少量を中心に調べました。また、初期治療群、メンテナンス群の2群に分けての比較、深さの違う4つの pocket groupに分けての効果の比較も行ないました。

その結果、BOP消失に関しては、処置した部位の約60%–70%で効果があるなど、予想以上の効果が上がったので報告します。また、使用に際して気をつけたほうが良い点にも言及する予定です。

2. 症例報告

“歯槽堤増大術 — 術式の異なる2症例の報告”

○田中 政行 (天王寺診療所)

審美性および口腔清掃性改善を目的に、異なる方法(自家材料<上皮+結合組織>、及び人工材料<コラプラグ>)を用いた2症例の報告をします。

(休 憩)

第二部

3. 症例報告

“Ridge expansion 及び MGS をからめた Implant 修復”

○吉田 淳 (難波診療所)

歯式 $\frac{7- - - | 3}{7- - - | 5 78}$ |4567 MT (金属床)

上顎金属床部を Implant で修復し、対合となる $\overline{567}$ Br の再製と $\overline{8}$ の Ext とを行なった症例。

- ・ $\overline{8}$ Ext を決定した要素と注意したこと
- ・ $\overline{567}$ MB-Br 製作における Ovate pontic、Connective tissue graft に関して、別症例からのスライドも交えてお話しします。
- ・ Implant 治療においては、Ridge expansion、MGS (Free gingival graft) を中心に話をしますこの症例の問題点として残ってしまった Implant 周囲の Biologic width の確保について話をしたいと思います。

4. 症例報告

“複数の問題を持つ前歯部補綴症例”

○久原 隆 (ミオ診療所)

金属による歯肉着色の改善と矯正的挺出を要する前歯部補綴症例について、参考となる症例を交えながら報告します。

5. 症例報告

“歯冠修復—歯周組織との調和を考慮して ”

○祖父江 俊隆 (天王寺診療所)

補綴処置を施す際、咬合関係の確立、歯周組織の改善、齶蝕治療、根間管治療、支台築造、印象採得、発音、審美的要求の充足、等々、配慮しなければならない問題点は多い。最終補綴物が口腔内に入るとき、患者からの complaint として最も多いのが、審美的要素に関するものである。それは、色調であり、歯冠形態であり、歯列弓との不調和であり、歯周組織との不調和であったりする。

今回は、前歯部歯間離開を、限られた条件下で、審美的に回復させた症例について報告する。

6. 総括